

# 和泉式部百首の研究 —恋部の主題を巡って—

国語国文学専修 国文学コース（岸本ゼミ）  
文21-0703 水口佳菜

# はじめに

Q. 和泉式部百首とは？

A. 和泉式部による、百首の歌（※九七首）をまとめて詠んだもの。



どのような部（主題）  
なの？

しかし.....

和泉式部百首には序文（まえがき）がない！

---

## 先行研究

①久保木寿子氏 「人を思ふ」

→そもそも恋とは「人を思ふ」ものなのではないか。抽象的。

②小林恵氏 あえて探るなら「恋」そのもの」

→「あえて」でありはっきりとは述べられていない。

主題が定まっていなない！

納得できない！

# ①恋部を詠む

「鏡」 =  
自分を映すもの

① 題知らず 藤原おきかぜ  
怨みても泣きてもいはむ  
方ぞなきかがみに見ゆる影  
ならずして (古今集)

「鏡」を「恋人」  
に重ねている

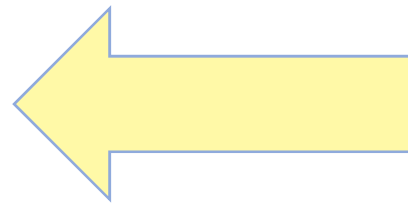
万葉的な  
要素！

② まそ鏡手に取り持  
ちて朝なさな見れど  
も君は飽くこともな  
し (万葉集)



（自分が見られもし、  
見もしようする人を  
毎朝起きては向かう  
鏡ともしたい）

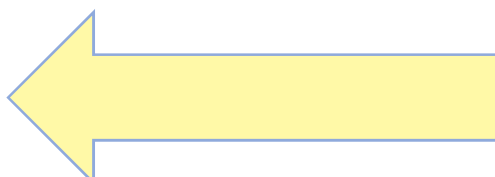
82 見えもせむ見もせん人を朝ごと  
に起きては向かふ鏡ともがな



## ②恋部を詠む

86 黒髪の乱れもしらざうち臥せば  
まづ搔きやりし人ぞ恋しき

(黒髪が乱れるのも  
知らずにうち臥すと  
まず髪を搔きやって  
くれたあの人が恋し  
い)



① かみやがは つらゆき  
うばたまの我が黒髪や  
かわるらむ鏡の影に降り  
る白雪 (古今集)

ありつつも君をば待たむ  
うちなびくわが黒髪に霜  
の置くまでに (万葉集)

② ぬばたまのわが黒  
髪をひきぬらし乱れ  
てさらに恋わたるか  
も (万葉集)

「黒髪」 =  
白髪になる  
もの

「黒髪」は黒のまま。  
乱れることで「心の  
乱れ」を表す

新しさ！

### ③恋部を詠む

恋が、身に染みる



色が染みる

「色」という  
「モノ」を  
使って恋を詠  
んでいる！



（世の中に「こひ」といふ色はないけれども深く身に染みるものであったなあ）

97世の中にこひといふ色はな  
けれども深く身にしむ物にぞ  
有りける

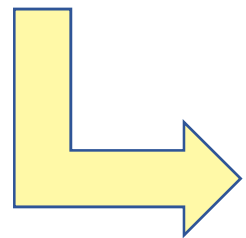
# 古今和歌六帖との関連性

9 7	9 6	9 5	9 4	9 3	9 2	9 1	9 0	8 9	8 8	8 7	8 6	8 5	8 4	8 3	8 2	8 1	8 0	歌番号
色	千鳥	山くさ	水の下 の石	火・涙 川	命	心	みるめ ・浦・あ ま	息の緒	魂	枕	黒髪	月	舟	浪	鏡	天くだ り来ん物	谷	和泉百首
○色	○千鳥	△菅	×	○火・涙 川	×	×	○みるめ 浦あま	△玉の緒	×	○枕	○髪	○雑の月	○舟	○波	○鏡	△わきて おもふ	○谷	古今六帖

# まとめ

## 和泉式部百首の特徴

- ①万葉的要素！流行を取り入れている。
- ②新しさ！一般的には用いない表現。
- ★③「モノ」に託して恋を詠んでいる！



結論

和泉式部百首恋部は、一つの主題を持って恋歌を詠んだのではなく、恋を「モノ」に託して詠むという目的のもと詠まれた部であると考えられる。